

拝啓

初夏の候、貴財団の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと慶び申し上げます。

私は、2024年より2年間、奨学生としてご支援を賜りました、沖縄国際大学産業情報学部3年の、と申します。支援期間の区切りを迎えるにあたり、改めて感謝の気持ちをお伝えしたく筆を執りました。数年前から父が病気で働けなくなり、家の収入が急に途絶えました。アルバイト代は、介護費用や施設費、授業料の支払いにほぼ消え、教科書代や参考書を買う余裕もなく、PCの追加購入などとても考えられない状況でした。お金がないということは、単に生活が苦しくなるだけではなく、専攻外の技術や考え方に触れる時間、同級生と何気なく話す時間、将来に向けて何かを試す時間、そういったものがじわじわと手の届かないところへ消えていく感覚がありました。

貴財団のご支援のおかげで、小学生のころから目指してきたITエンジニアへの道を諦めずにいられることができました。現在は、学生主体のIT企業でアルバイトとして実務に携わっています。先日も、160人同時接続を想定した会議システムの開発業務で、負荷テストを行ったところ70人程度でリクエストが詰まり、開発が滞るという問題に直面しました。マニュアルも前例もない中で一から戦略を立て、確証のないまま実行に移すのは、正解の~~ない~~あった学生生活とはまるで違う困難さでした。そしてそういう場面で力になるのは、その場の頭の回転ではなく、業務の外で日頃から積み上げてきた知識と経験だと実感しています。お金や時間に追われていたあの頃の自分には、そのような余裕

は ありませ人でした。貴財団のご支援があったからこそ、学びに時間  
を使える環境が生まれ、こうした壁に向きあうことができています。

いただいたご支援を当たり前のこととは思わず、これからも精進して  
まいります。そしていつか、かつての私のように選択肢を奪われてしま、そんな  
人たちに、少しでも時間と可能性を分渡せる大人になりたいと思っ  
ています。

末筆ながら、貴財団のますますのご発展と、皆様のご健勝を  
心よりお祈り申し上げます。2年間、本当にありがとうございました。

敬具